駅本屋
（Station Main Building）

はじめに

駅本屋（えきほんや）とは駅にある本屋さんのことではありません。確かに駅と本屋は縁が深く，創業期の英国の駅でも既に本屋があったとは言われていますが。

「駅」が旅客の乗降または貨物の積卸しを行うために使用する場所全体をいうのに対し，主要な施設の入った建物を駅本屋と呼びます。一般的な旅客駅は，駅本屋を中心として，内側に列車に乗降するためのホームがあり，外側に駅前広場などをもっています。

図１は，日本を代表する東京駅丸ノ内本屋ですが，これ以外にも八重洲側や地下部分にも駅本屋があるように，大きな駅では複数の駅本屋をもつことがあります。

駅本屋の種類

駅には，立体的な街路と駅本屋・線路の位置関係から，地平駅・橋上駅・高架下駅・地下駅といった違いがあります。地平駅は，丸ノ内本屋のように街路と同じレベルに駅があるもので，以前は大部分がこのタイプでした。

近年増えているのが橋上駅（図２）です。これは，線路上空に駅本屋が配置され，線路をまたぐ歩行者専用の自由通路（跨線橋）に接続する形が大部分です。地平駅だと，線路の両側に本屋を造る必要がありますが，橋上タイプだと１箇所ですむうえ，線路の両側をむすぶ通行の便もよくなるので，ある程度の規模をもつ最近の新改築駅は，ほとんどこのタイプになっています。

高架線や地下線でも地平に本屋をもつことがありますが（最初から線路が高架だった東京駅などもその例です），そのような形式では，線路の直上や直下に駅本屋と線路構造が一体化して設置されます。

駅本屋の機能

駅本屋の内部は，コンコース（図３）・通路・改札口などの流動施設，待合室・売店・便所などの旅客施設，出札室（切符売り場）・券売機室・旅行センター・案内所・精算（機）室などの接客施設，駅長室・駅務室などからなる駅務施設の４つの施設に大別されます（図２）。

駅の成り立ちを歴史的にみると，最初は，出札～待合～改札（～ホーム）というように，待合の機能が大きかったものが，次第に流動部分のコンコースが大きくなってきたと言われています。今日の都市部の駅では待合スペースがみられず，大きなコンコースが中心になっていますが，地方では依然として待合が主要な機能となっている駅もあります。

海外，特に欧州の大規模な駅本屋には象徴的な名建築が多いことはよく知られています。それらの内部構成は基本的には日本と同じですが，改札口がなく列車（ホーム）への接近性が日本より高いことが最大の特徴といえます。

（構造物技術研究部　建築　青木俊幸）

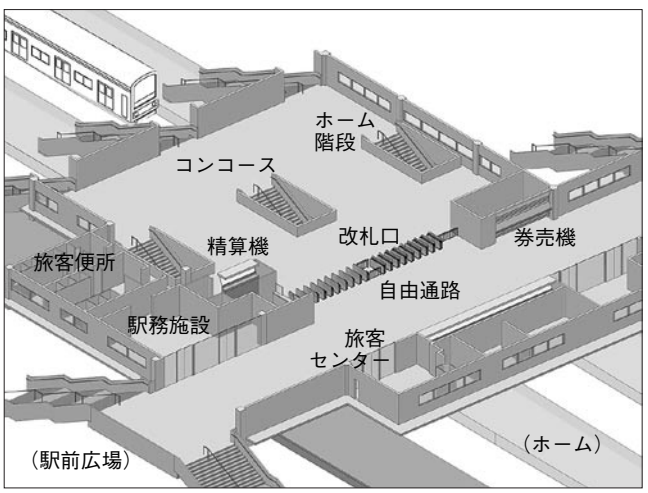

図２　橋上駅の概要

図１　東京駅丸ノ内本屋

図３　上野駅コンコース